

第22号

川越初雁会



令和四年度

川越初雁会総会開催

金子新会長誕生

令和四年九月十七日(土)第十二回川越初雁会総会が、川越高校図書館セミナー室で開催されました。



久しぶり開催された総会

岩堀会長挨拶の後、加島事務局長の進行で、令和三年度の事業報告、並びに決算の承認、令和四年度の事業計画案と予算案が承認されました。

また、今年度から会長を金子憲二さんに交代する役員改選が発表され、承認されました。ひき続き、記念講演が行われました。要約は次のページに記載します。

岩堀会長退任

平成二十五年から九年間、前開口会長から会長を引き継がれた岩堀会長が退任されました。

会の運営に尽力されたほか、他地区の同窓会にも積極的に参加していただきました。



岩堀前会長

会長に就任して

金子 憲二



金子新会長

今年こそ、以前のように会員が同じ場所に集まり顔を合わせて、懇談できる日が一日も早く出来ることを期待しています。

年代を超えた交流の場として

定期総会にて岩堀弘明前会長から引き継ぎ会長に推挙を受けました。功績の大きかった岩堀さんの後継ということですが、事務局と協力して楽しい初雁会を運営していくつもりです。よろしくお願い致します。

新型コロナウイルスの影響が続き会合が開催しづらくなつて三年近くになります。しかし、少しずつコロナ禍の出口も見えそうになってきています。

川越初雁会としての意義は人と人の交流の場であり、同年代のつながりも大事ですが、年代を超えて親しくなれる会でもあります。同窓のよしみという気安さと、年代の異なる仲間を大切に、様々な行事を通じ、感謝の気持ちを持つことで、交流も深まると思います。

就任間もない会長ですが、会員の方々、役員の方々のお力添えをいただき楽しい初雁会を、引き継げるようにしていきたいと思っております。

令和四年度定期総会記念講演

つながりが生み出す新たな価値と機会

社内ベンチャーとワーケーション

講師 田中 敦 氏 (高三十四回)

総会終了後に、山梨大学教授 生命環境学部 社会システム学科教授の田中敦氏の、記念講演が行われました。当日の講演の内容を紹介します。



講演中の田中氏

こんにちは、田中敦です。

自分は大学を卒業後、JT Bに就職しまして、色々な経験をさせて頂き、二〇一六年より山梨大学の教員としてお世話になってます。教員の傍ら、官公庁や政府の働き方に関する各種委員会や山梨県の観光推進委員の任も担っています。

ワーケーションとは

早速ですが、「ワーケーション」という言葉をご存知でしたでしょうか？

「ワーケーション」はワークとバケーションの合成語で、二〇一五年にウォールストリートジャーナルで提唱された概念です。一見、残業を家や旅先に持参するみたいな悪い印象ですね。

今でもグーグルで画像検索すると、パソコンを旅先で叩いているみたいなお決まりな画像がでてきますが、ワーケーションの意味

合いは年々変わってきています。

皆様のご子息とかお孫さんに向けて、これからの働き方のヒントになればと思っております。

まず自分の高校時代から今に至る経緯をお話させていだけたく思います。

川越高校時代にはバスケット部に所属し、一生懸命に打ち込んでいました。そのせいか、学業成績の方は最底辺を彷徨っていました(笑)。一浪後に横浜国立大学教育学部に進学、バスケットは続けました。卒業を前に海外での仕事に憧れを持ち、JT Bへ就職しました。

JT Bでは最初に修学旅行の担当をし、その後社内の海外研修に応募して、ニューヨークに滞在、帰国後は人事や労務といったような業務につき、今後の人生の礎となるような実践を経験しました。

その時期にMBA取得にチャレンジしました。退社後にMBAの勉強をしていることが発覚すると、「おまえは転職しようとしているな」と裏切り行為的な眼差しを受け、降格辞令を受けてしまいました。めげずに、夕方六時ちょうどに退社して、大学院に通い勉強を続けました。その時の先生が

前デジタル監の石倉洋子さんで、事業プランを立てる課題で褒められ、大学院仲間からも起業を促されました。

そんなときに、偶然JT Bグループで新規事業公募(社内ベンチャー)があり、募集したら、採用されました。立ち上げた会社の名は「(株)JT Bベネフィット」。事業内容は、企業の福利厚生をアウトソーシングで請け負うというものです。

二〇〇〇年までは日本に存在していなかった業態であり、当時銀行合併がはやっ

ており、その時に発生する福利厚生の一の問題解決として注目を浴びました。

この福利厚生代行サービスですが、市場規模は毎年倍々に伸び、当時の経済雑誌（東洋経済）等で新時代の有望経営者として大きく取り上げられました。会社の創立から2年間社長として働いた後、様々な理由で会社を離れましたが、その後JTBはこの会社を一五〇億円で売却しました。この金額は社内ベンチャーで発足した会社のバイアウトでは日本一の額であり、



金子会長の謝辞

川越高校で成績四〇〇番代でも日本一にされたと自負しております（笑）。

こうして偶然にも社内スタートアップに関わられたこと、会社が大きくなるにつれて発生する人事や働き方を含め様々な問題を経験できたことは、その後の人生に大いに役に立つものであったと思います。

その後、観光を中心に教える教員として二〇一六年に山梨大学に赴任しました。このころはインバウンドとして外国人観光客が増大していた時期でした。当時観光に関するシンクタンクがあまり存在していなくて、本当に仕事が多かった時期に何で縁もゆかりもない山梨なんかには、とよく言われたのですが、コロナ禍になった途端に仕事が無くなり、お前は先見の明があるよとよく皮肉を言われました（笑）。そんななか、二〇二〇年七月に当時の菅総理が突然

ワーケーションを推進する」と発表してから急に忙しくなりました。私はその二年前からワーケーションの論文を発表していたりしており、当時ワーケーションを語ることができたのが私くらいしかいませんでした。

政府機関や官公庁の委員会に呼ばれることが多くなり、当時はGOTOキャンペーンが始まった頃で、ワーケーションという言葉が急に浸透した時期でした。

ワーケーション定義の変化

ワーケーションの定義として、最初は休暇の合間に仕事をするというようなものでありましたが、今では郊外での会議や研修（合宿型）、地方にサテライトオフィスを作る、出張先の観光までを含むようになり、あまりに多様化しつつあります。

ればならない状況になってきました。従業員の働き方改革や社会貢献の面からみて、ワーケーションのメリットが明らかになり、導入が進みつつあるというのが現状となつてきています。例えばNTTでは、働く場所は自由で、どこで働いても良いというルールを実践した結果、単身赴任が減る、社宅手当が減る、賃貸オフィスが減るといったような効果が得られました。

またワーケーションは地域の課題を解決する一つの方法としての側面も持ち合わせています。今の二〇代は地元へ貢献したいという強い気持ちを持っております。今までは東京か地元かの二者択一であったものが、都内の仕事をしつつ地元に残って地域貢献を行うといったようなことが可能となります。結果として、働く人の兼業を促すことにつながり、また企業の地域活

動を促進するという効果も期待できます。

ワーケーションは世界中に広まっています。EU諸国の中には、テレワークをする権利を法律で定めている国があります。海外ではフリーランスで仕事をする人たちのたまり場のような所ができてつあります。例えばコスタリカとかポルトガルの諸島郡、バリ島などです。

リゾートオフィス、SOHO、テレワーク等、これらの言葉は、コロナ以前では「できたらいね」という願望のレベルでしたが、ここ三年で一気に推進しました。コロナ禍が過ぎ去った後もリモートワークは定着するでしょう。ワーケーションは柔軟で多様な働き方が重視される時代には不可欠な枠組みであり、今後さらには日本社会に展開していくと確信しています。

秋の散策会

浅草寺界限散策

加島 篤人（高三十四回）



雷門を前にして記念写真

紅葉がさ

かりの十一月二十日、十五

名の参加で、秋の散策会が行われまし

た。当初は雨天の予報でしたが、当日は高曇りで日中はどうか天候は持ちそうでした。

目的地は東京浅草。小江戸から大江戸最大の観光地へと遊びに行った事になります。

二百年前は新河岸川を舟

に乗って一日がかりの旅でしたが、今では電車で一時間ちょっと。

いつでも手軽に行ける場所ですが、このような機会がないと、わざわざ行かないのも事実です。

一同、久々の浅草という方が多かったようで、往きの電車の中で、遠い記憶を辿ったり、配布した地図を眺めながら思いを語り合っていました。

銀座線浅草駅に到着。まずは浅草寺へ参拝です。

インバウンド解禁後の雷門前の人だかりはさすがに、スマホをかざしての撮影ラッシュの様相を呈していました。早々に集合写真を撮り、仲見世通りへ突入、

そこそこ混んではいましたが、整然と人のかたまりは

流れていました。どこかのお国の群集事故は、ここには無縁です。

この場所は人種のるつぼでありますが、秩序が整然と保たれています。寺の境内より東の方角に目を向けると、所々のビルの合間から、東京スカイツリーが姿を見せています。過去と近

未来の不思議なコントラスト、東京観光最大のウリではないでしょうか。無事、浅草寺の参拝をす

専用の橋が架かっており、橋の中央部まで歩いてみました。橋の床の一部が透明の亚克力板となっており、ちよつとしたスリルが味わえます。

橋より隅田川下流方向の眺めを堪能し、元へと引き返します。隣の電車の鉄橋に「Since1930」との刻印がありました。一九三〇年といえ、昭和五年であり、東京大空襲を生き延びた建造物であると思うと、感慨深いものがありました。



昼食会の新旧会長

昼食は雷門近くの「葵丸進」にて天ぷらを堪能。当初の予定では、どじょうを食す予定でしたが、急なインバ

ました後は、お寺の二天門をくぐり、隅田川の方へ足を進めます。

ウインド解禁の余波か、店の予約ができませんでした。どじょうは次の機会にと、

東武浅草線の隅田川にかかる鉄橋にそって、歩行者

た。浅草を後にした散策会でした。

雁の記

川越散策日記

新河岸川を探る

その一余話

荒牧 澄多 (高二十七回)

監督 猪鼻正明、施行者 田村工業所」と記されています。

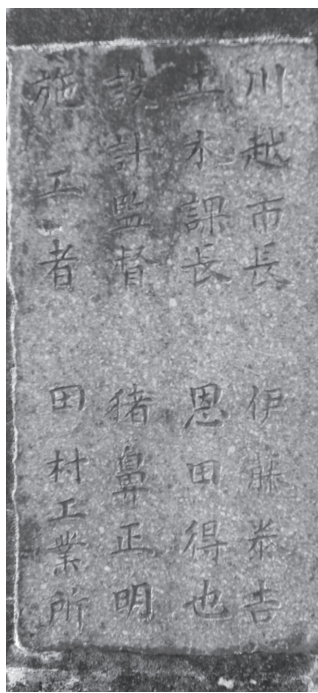
恩田さんが川越市に奉職した時期、土木課長として辣腕をふるった時期等は、市役所にも伺いましたがわかりません。昭和三十三年八月二十九日付けで依願退職されています。



新河岸川起点近くの八幡橋

恩田土木課長の思い出
前回、一級河川新河岸川起点の話とともに、八幡橋の銘板の話もさせていただきました。これを読まれた某先輩より、川越市の土木課長だった恩田得也さんの思い出が寄せられましたので、ちょっとご紹介したいと思います。橋は、昭和三十一年十二月竣工。銘板には「川越市長 伊藤泰吉、土木課長 恩田得也、設計

別の先輩からいただいた初雁中学校発行の「初雁新聞」昭和二十八年十月二十四日号に、伊藤泰吉市長、大河内要三市議会議長の祝辞と並んで、「工事報告」を寄せています。市長や議長と並んで掲載されていることから、市役所内でそれなりの立場にあったことがわかります。ちなみに、川越市の予算



八幡橋の銘板

に占める費目としての土木費の割合は、当時も今も約六％程度です。土木課の所管事務の大きさでいうと、現在の川越市の建設部、都市計画部、上下水道局を合わせたぐらいです。昭和三十六年の広報に、土木課の仕事が紹介されています。それによると、課長以下六十名、土地収用や道路占用、道路や橋の修繕や改良、下水道の新設や管理、土地改良、水害予防、首都圏衛星都市としての都市計画や開発事業、町名地番整理、そして市営住宅の建設管理、さらに、学校をはじめとする他の課の建築関係全般と、多岐に渡っています。これを見ると、土木課の守備範囲は膨大です。「恩田天皇」。建設関係に携わったかなり年配の方々の間では、こう伝えられているそうです。伝説的な方だったようですね。恩田さんは、戦後の復興期に、数少ない市の技術者として辣腕をふるっていたと伺いました。工事業者は、日曜日でもかまわずに呼び出されて、請負の話をするということも頻繁にあったそうです。彼は、広範囲の仕事なんでもこなすとともに、ぐずぐずしていたり、仕事ができない者は相手にしないような方だったとも聞きました。好き嫌いや激しく、請負業者を特命で指名するとともに、ダメだと決めつけられた業者は、二度と川越市の仕事をもらえないこともあったとか。いまでこそ業者の選定は、市の幹部職員による委員会です決めています。この話を伺っていると、恩田さんは、独断で請負業者を決めることができるほどの実力者だったようですね。何はともあれ、戦後の川越を導いたキーマンの一人だったのではないのでしょうか。

伊藤市長について
伊藤泰吉氏は、東京帝国大学卒業後、朝鮮総督府に入府、通信局長にまでなりました。終戦の翌年、昭和二十一年に川越市長に就任。二十二年に公選化後初の市長に選出されます。そして、昭和四十年に在任中に急逝されます。この間、昭和三十年の一市九村の合併、町名地番整理、川越狭山工業住宅団地の造成、東洋大学工学部などの三大学の誘致など、現代川越の礎

を築いたといっても過言ではないでしょう。昭和四十年九月に自身がかわった市民会館で市民葬が行われました。この時に名誉市民条例が制定され、第一号の顕彰です。詳細は、川越市の広報のバックナンバー昭和四十年八月十日号をご覧ください。

なお、名誉市民の称号は、これまで加藤瀧二、山崎嘉七、川合喜一、相原茂吉、舟橋功一の各氏に贈られています。

猪鼻正明さんは、昭和三十六年に土木課長になられました。その後昭和四十五年に建設部長になり昭和五十六年七月三十一日付けで退職されるまで、十一年半という長きに亘って建設部長を務められました。

田村工業所は、昭和二十四年設立で、的場に本店を置く市内有数の土木工事業社です。

読書サロンの歩み

圓山 壽和

(高十七回)



幸すしの離れ座敷での読書会

藤沢周平を読んで六年目

同窓のよしみを活かした交遊の場、藤沢周平読書

サロンもこの一月十八日、六年目に入りました。平成三十年一月十五日、第一回が「幸すし」の長島さんの協力で会場も確保され、その後奇数月第三水曜日、午後三時、幸すしさんを定例会場にして二十九回になります。コロナ感染拡大期も休会二回で凌ぎました。

発端は川越初雁会の散策会等で会う機会の増えた岩堀・前川越初雁会会長との雑談で、「会員の交遊の場がもっと欲しいね」に対し、「藤沢周平の時代小説は癒されますよ、読書サロンはどうですか」と提案したのが始まりです。

その前に小生も出席した小川初雁会の総会に講師で来ていた岩堀さんに、帰りの東上線で藤沢周平の「海鳴り」はいいですよと勧めたこともありました。

うまい具合に会員九人が集まり、今は十一人で構成しています。回を重ね面識も深まり、会場の雰囲気も良くいい湯加減のサロンになっています。

一年に一冊を基本に毎回四ページづつ朗読し合い、進行役の小生から関連資料を提供し、続いて読後感を披露し合っています。食事

を兼ねた懇親の時間をもち午後六時前後に解散しています。

これまで取り上げた本を列記します。▽三屋清左衛門残日録 ▽蟬しぐれ ▽用心棒日月抄 ▽玄鳥(小説集) ▽麦屋町昼下がり(小説集)

*参加費は毎回の食事代三千円と半年毎に徴収する運営諸雑費/三千円です。

第二十一回 ゴルフコンペ

梶田 進一(高二十回)

日時 令和四年十月六日(木)

場所 川越カントリークラブ

参加者三十名

今回のコンペはあいにくの雨天での大会となりました。参加者はやや少なめの三十名でしたが欠席もなく協力いただきました。成績は以下のとおりです。

- 優勝 岸野 洋さん(高十九回)・準優勝 梶田 和久さん(高二十回)・三位 澤田 昌俊さん(高十六回)
- コロナ禍の影響もあり前回同様、パーティを中止し、午前中のハーフ集計での結果です。
- 一日中雨が振り続け気温もかなり低い状況下でのプレー、本当にお疲れさまでした。
- 今回、誉田孝さん(高二十五回)を新しい仲間としてお迎えできました。今回は雨天のため集合写真を撮影出来ませんでした。
- 事務局からのお願い**
- 年会費二千円未納の方は、お早めに納入をお願いいたします。
- 発行人** 会長 金子 憲二
- 事務局 川越市 中台南 二丁目十三の十
- 題字 吉沢翠亭義和
- 印刷 (株)櫻井印刷所